

解答

一

問一 急ぐと目先のことしか目に入らず、とんでもない見当違いをしてしまいがちだから。
 問二 いくらあわただしく走りまわっても、じっくり計画を立て、目的をきめて、二歩でも三歩でも進む人に及ばないということ。

問三

- ③ エ ④ ア ⑥ ウ

問四

エ

頭のよい人は困難があらかじめわかかってしまい、壁につき当たるとあきらめてしまうが、愚直な人は常識ではできないとわかっていることでもじっくりと取り組むので、そのうち思いもかけず活路がひらけたりするから。

問六

一見矛盾する言葉を結びつけて、一面の真理を伝える

問七

「まける」と「かつ」とが同一次元でないから

問八

ア

問九

エ

二

問一

エ

校長が言った無限の可能性という言葉は嘘だと感じており、夢をあきらめずに絵を描きつづける白井先生に反感を持っていたから。

問二

問三

ウ

問四

イ

問五

ア

問六

ア

問七

- ア ○ イ × ウ × エ ○

三

問一

主成分である水素が核融合を起こすことによって、膨大なエネルギーを発生させ、光を発しているから。

問二

太陽が石炭でできているなら、七〇〇〇〜八〇〇〇年程度で燃やし尽くしてしまうことになり、太陽の年齢を考えるとまったくたりていないから。

問三

- ア × イ × ウ × エ ○

四

① しじょう

② しょうじん

③ ねみみ

④ しょかん

⑤ くる「い」

⑥ あんぴ

⑦ じゃくねん

⑧ あやつ「る」

⑨ いちじる「しい」

⑩ たいきばんせい

五

① 得休

② 飼育

③ 絶版

④ 前提

⑤ 難易

⑥ 平然

⑦ 消防署

⑧ 効「く」

⑨ 築「く」

⑩ 我田引水

解説

一

問五

同じ段落の前半で「頭のよい人は困難があらかじめわかかってしまう。すこしやってみて、この先は壁だとなると、すぐあきらめてしまう。」が、「愚直な人は、(中略)常識ではできないとわかっていることでも、じっくり腰を落ち着けて押していると、そのうち不思議と、あるところへ来て、おもいもかけず活路がひらけたりする。」と述べられています。

二

問二

ひとつ前の段落の「入学式のとときに校長が言った『きみたちには無限の可能性があります』は嘘だった。」、傍線②の後にづく「(白井先生を)見たくない。いてほしくない。」といった心理描写から、白井先生に反感を持っている様子がうかがわれます。

三

問一

本文の後半で、『核融合』といわれるエネルギー発生方法」について説明があり、恒星の代表例としてあげられた太陽の主成分が水素であることが判明して「太陽のエネルギーの源はこの核融合だろうと考えられ、」「ふつうの星たちも、太陽と同じように、核融合で輝いているのだ」と結論づけられています。